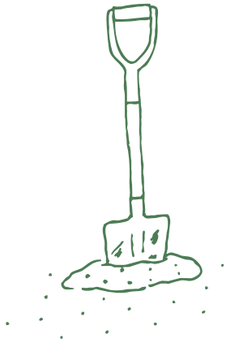
設立年月 …… 2003年2月
法人化した年月 …… 2003年7月
メンバー数 …… 正会員19名　賛助会員75名
代表者名 …… 高橋 康太郎（たかはし・こうたろう）
連絡先　〒834-0031 福岡県八女市本町2-105　旧八女郡役所
電話　0943-24-5545
メールアドレス　info@gunyakusyo.com
ホームページ　http://gunyakusyo.com/
facebookページ　https://www.facebook.com/yameakiyaswitch/
＜団体のミッション＞
私たちは、重伝建地区も含む八女福島地区にある地域資源（空き家等）の再生・活用を通じて、景観の保全と交流の促進を目指す団体です。旧八女郡役所の再生と活用を中心に活動を行っています。

まちと人、人と人がつながる 旧八女郡役所2018計画

……特定非営利活動法人 八女空き家再生スイッチ【福岡県八女市】



団体設立経緯

当団体は、平成15年に八女市福島地区の伝統的建造物群保存地区（伝建地区）周辺に残る大型の歴史的建築物（福島工業試験場跡）の保存を目的に設立されましたが、残念ながら、その建物は解体されてしまいました。その後、こういったことが周囲で二度と起きないよう願っていたのですが、平成24年に当団体が、次なる大物の空き家「旧八女郡役所」の建物寄付を受け入れることになり、プロジェクトとして再び歩み始めました。

地域概要

八女市の中心市街地の福島地区は、城下町の町割りを起源とした町並みが残っています。近年の町並み保存運動の成果で、少しずつ若い移住者や出店者が出てきた一方で、少子高齢化にともなう空き家の増加で手入れが行き届かず、老朽化・廃墟化してしまう危険性を孕む建物もまだまだあり、早い段階で修理し、建物の保存活用だけでなく、後世に技術や材料の調達など関連事業とともに継承していくことが重要課題となっています。

活動に至った背景や理由

「旧八女郡役所」は伝建地区でも一際目を引く明治20年代築の大きな木造の建物です。郡役所移転後、木蝋工場、戦時中の銃弾製造工場、集合住宅、飼料店と増改築を繰り返し、20年前から空き家になり、風雨による痛みが年々ひどくなってきました。明治期に八女郡是作成の舞台となった歴史性や、大きな梁が連なる小屋組と静謐で緊張感のある大きな空間の魅力を残すために、私たちは保存と活用を見据えた取り組みを行っています。

活動内容と成果

～「旧八女郡役所」の再生活用～

「旧八女郡役所」は、学術調査によると、明治20年代に民間が建築、県に賃貸し役所として使用されたものと思われるとあり、八女郡（現在の八女市・筑後市・広川町）の郡役所だったことがわかっています。明治中期から戦前にかけての八女地方では、江戸期に醸成された産業や文化が花開き、都市や山村の基盤が充実していきました。その礎になったのが、当時の郡長・田中慶介が作成した八女郡是や各地域の町村是で、その舞台が「旧八女郡役所」でした。

私たちは「旧八女郡役所」の建物を実際に活用するために必要な修理を平成27年度から行っています。今回の助成を受け、①地元材を用いた床張り・壁張りワークショップ、②杉が床材になるまでを知る見学会、③完成後のイベント開催、④敷地内の外構整備へ向けた勉強会の4つの活動を行いました。

1.まずは、自らが学び実践することから始める

建築物内装の土壁塗り・床張り・壁張りワークショップ

平成27年7月より実施した本格的な基本構造・屋根・外壁の改修及び会員を中心に一般参加者を募った土壁塗り・塗装ワークショップによって、最低限安全に建物の内部利用ができる状態になりましたが、内装は手付かずの状況でした。

建物内に、テナント（酒屋）と当団体が運営する「kito-rasu（キトラス/基本は絵本屋さんが運営）」をつくることが決まり、平成28年5月頃から内装工事を行う予定で準備を進めていましたが、材料調達や大工さんの都合により、本格工事開始が秋以降に遅れてしまい、まずはできることは自分達で進めることにして床張り・壁張りをするための準備・片付け工程を少しずつ進めました。

最初は建物内で湿気の多い部分をコンクリート土間にするために必要な掘削作業で、重機などは扱えないので、スコップと一輪車を駆使した肉体作業でコツコツ掘り進めました。次に解体作業で、最初はおっかなびっくりでしたが、途中からは勢いが出てきて予想以上に早く終わりました。さらに壁づくり（荒壁塗りまで）も行いました。平成27年度に実施した荒壁塗りでは、ボランティアの方々へのお世話のためNPOスタッフは土壁塗りを経験することが出来ず、その反省と今後の修理のことを考え、NPOスタッフだけでも荒壁塗りを出来るようになるため、竹を仕入れ、割り、藁を切り、土に藁や水を混ぜ調合するところから勉強する荒壁塗りを行いました。他にも、外構の草刈りや廃材の分別・運搬を随時しました。

そのような準備を毎週末行い、床のコンクリート土間打ちが年末に終わり、年明けの1～2月の床張りワークショップが決まりました。床組みまでを大工さんにお願いし、一般の方にWEB等で募集したところ、20人以上の方が九州一円から参加されました。しかし、運営側は初めてのことで段取りが悪く、作業の人手が余ってしまい、一般参加者とともに作り上げるプロセスを大事にしたいと張り切っていたものの結果的に手持ち無沙汰にしてしまいました。その後は大々的なワークショップ開催の広報はせず、NPOスタッフを中心に口コミでの参加者と少人数で作業を進めました。少人数で丁寧に床張りをしていくと、材料が腐っていたり、反っていたりと自然乾燥材の特徴に気づきながら、「あー、また曲がってる！」や「張り直しましょうか！」などの言葉が飛び、和気藹々といった雰囲気で作業が進み、愛着も湧いてきたように思います。

普段は大工さんに任せてしまい簡単に考えてしまいがちな工事ですが、実際に自分たちだけで板材を現場の実寸に合わせて切り、張るのは大変難しく（楽しい）ことを実感しました。こちらも少しずつ作業を進めていくと、空間の変わりように感動し、木の香りもして、店舗空間らしくなりました。

2.「森」と「まち」の同期へ向けた実験的試み

地元産杉（八女杉）の発注と床材・壁材になるまでを知る見学会

もともと八女地方は林業が盛んな地域で、市域の約7割が森林面積です。ところが、伝建地区での修理・修景事業で、積極的に地元材を使っているような話を聞きません（結果的に地元材が使われるケースはあります）。その理由を知りたいのと、今回の事業が地元材を使うきっかけになればと思い、若手の方が経営する製材所に相談をし、材料の手配をお願いしました。ところが大工さんにその話をすると、地元材は仕入れ価格が高いので、わざわざ工事費が掛かるようなことはしないと乗り気でありません。各方面に問い合わせたところ良質な八女材は県境を越えたところにある木材市場（供販所）に売りに出されるケースがあり、その供販所から八女の多くの工務店さんが材料を仕入れていることや、その市場が他産地の動向（海外市場の動向）なども勘案しながら買い手の要望に応じた形態での販売を行っていることが理由だということが判ってきました。とはいえ諦めるわけにはいかず、大工さんにお願いして必要な量を製材所に発注し、秋には八女の森や製材所を見学しました。実際に森で八女杉の伐採を実演してもらうと「わー！すごい」という歓声が上がり、関係者に多くの質問が飛んでいました。

3.「大きなホール」利用によって次なる想起・展開へ

完成後の利用／イベント開催

建物の利用開始を記念し、地元の現代美術の作家さんによるイベント「かめのぞき ウシジマトモコ インスタレーション展」を3月12日から4月3日に開催しました。太い梁の小屋組がある「大きなホール」を中心に展示・利用してもらい、今後の様々な空間利用への想像・想起を促すことができたと思います。早速、今回のイベントに参加されたダンサーによる平成29年秋の利用が仮決定しました。イベント初日は、地元の集客力あるイベント「テラコヤノミノイチ」に合わせて行いましたので、沢山の来場がありました。最終日には、紙風船と舞踊のコラボレーションイベントを実施し、町並みを練り歩くなど、小さな子どもにも大人気でした。会期終了後には「大きなホール」で懇親交流会を実施し、夜の雰囲気を楽しみました。

テナント（NPO関係者が酒屋）が3月5日にオープンし、町並みや移住についての一次相談窓口的な場所ができました。

4.歴史・遺構を大切にした庭づくり

敷地内の外構整備へ向けた勉強会／外構の丸石布積みの発掘調査

敷地内の庭づくり計画を考える勉強会（ワークショップ）を、2月5日に京都の造園家を招いて開催しました。京都の文化財建造物の庭づくりを通じて痕跡の大切さを学び、建物を活かすための外構のあり方、それら運営方法の工夫を教えていただきました。また、旧八女郡役所の基礎周囲に5～7段もの丸石布積みがあることが発掘によって判明しました。これは八女地方特有のもので神社などにも利用されています。今後は歴史・遺構を大切にしながらレンガ敷きの箇所や排水との兼ね合いも踏まえて、外構づくりを慎重に進める必要があることがわかりました。

課題と解決策

ワークショップを行う際、まず自分達が作業を出来るようになり、準備から片付けまでの流れを事前に把握しておくことが必要だということを痛感しました。考えてみると当たり前のことで、今後はもっと段取りよくやれるのではないかと思っています。

また、地元産材（八女材）を使用する際、一般的でない特定サイズの木材を製材から調達する場合は、乾燥などの時間が必要で（特に自然乾燥の場合）、工事業者との十分な打合せが不可欠だということがわかりました。それは土壁塗りも同様で、公共工事など1年度内での予算を使う工事での課題となっていることも理解できました。八女では、それらに対応できる技術・知識を持った林業関係者・職人がまだ存在しているものの、高齢の方が多いうえ若い林業関係者や職人が学ぶ場として前述のような現場がほとんどありません。今後は、後継者を育成する場をつくることが大きな課題です。木の良さ、土の良さは実際に触り、嗅ぎ、使うことが大切で、訪問者にも実際に体感していただき、地元産材の良さ・特徴を改めて広めていきたいと思っています。

今後の予定

平成29年度に外構工事（排水や植樹）を行います。絵本屋さんが中心となって運営する「kitorasu」では、飲食業許可を取り、イベントを随時開催します。それ以外でも普段から近所の方が集まってワイワイできる空間にしたいと考えていて、まだ手付かずの土壁塗りや外構づくりなど、補修工事を継続しながら、空間を少しずつ作り込んでいく予定です。さらに、空き室になっている空間の活用に向けて検討も始まっています。